

DXビジョン

デジタルで、一人ひとりが多様な幸せを実現する社会を目指します。

JICA は、人間力と創造力を大いに発揮し、デジタル技術・データを活用することで、誰一人取り残すことなく、一人ひとりの安全な暮らしと多様な機会・幸せを実現する、強じんて持続可能な社会を目指します。

- デジタルが「誰一人取り残さないだけでなく(包摂性)、一人ひとりの個別性(多様性)にきめ細やかに対応すること」(包摂性と個別性の両立)を技術的に可能にすることを踏まえ、JICA が次のデジタル時代に提供する価値の方向性を示す。
- JICA のビジョン実現へのデジタルの活用を念頭に置き、以下の2点を意図している。
 - 「人間の安全保障」に対しては、安全と並んで「人々自らの可能性の追求」も意識し、「一人ひとりの安全と多様な幸せの実現」を目指す。
 - 「質の高い成長」に対しては、デジタル時代の成長の基盤となる「質の高いデジタル社会の構築」を目指す。
- なお、日本政府は、Society5.0 が実現する社会を「持続可能性と強靱性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ(well-being)を実現できる社会」と定義している(第6期科学技術・イノベーション基本計画)。

3つの変革/9つの行動

I. 事業を変える: デジタルによる革新的な開発インパクトの創出

デジタル技術・データの利活用を進め、高い開発インパクトを創出します。また、多様な知を結集し、革新的な発想で事業を推進します。

行動1【デジタル利活用】デジタルを活用した新しい価値の創出

高い開発効果を目指して、今後の社会の核となるデジタル技術・データを全ての事業において利活用することに取り組み、各分野等でデジタルによって新しい価値を社会に提供する事業モデルを創出する。挑戦や工夫を促す DX・ラボ¹設置等により、革新的な取り組みを推進する。

行動2【外部共創】革新を生み出す共創の推進

多様なパートナーとの共創を通して、革新的な技術、アプローチを取り込み、事業に活かす。また、パートナーとの連携・協働を通じた課題解決を追求する。共創にあたっては、JICA が蓄積する知見・情報の外部との共有・利活用を推進する。

行動3【人材ネットワーク】多様な人材ネットワークの強化

JICA の強み・財産である人的ネットワークをデジタルで強化する。国際協力で築いた多様な人材との関係を維持発展するため、オンラインによる相互連携や継続的関係の構築を図り、戦略的・効果的に人材ネットワークを強化する。

¹ 新しい技術やアプローチを取り入れた事業への挑戦・実証を支援する仕組み

Ⅱ. 人を変える: デジタルによるスタッフ一人ひとりの活躍推進

スタッフ一人ひとりが、マインドセットを変え、デジタル技術・データを使いこなし、個の強みとチーム力を活かして、さらに活躍します。

行動4【マインドセット】激変する世界に俊敏・柔軟に対応するマインドセットの改革

スタッフ一人ひとりが、激変する世界にアジャイルに対応し、「革新」と「共創」の意識を強め、デジタルにより価値を生み出す行動規範を身につけて、さらに活躍する。

行動5【デジタル人材】デジタル技術・データの利活用のためのスキル・リテラシーの向上

スタッフ一人ひとりが、デジタル活用を前提として業務に取り組めるよう、リスキング研修を通じて、自らのデジタルスキル・リテラシーを向上させる。また、DX を主導するリーダー層、デジタルと事業・業務をつなぐ「デジタル・トランスレーター」の育成と、先端技術に精通した高度デジタル人材の確保を通じて、組織全体としてのデジタル能力も高度化する。

行動6【勤務環境】多様性を尊重し一体感に支えられた勤務環境の整備

場所や時間、言語、障害等の様々な制約に拘束されずに、柔軟かつ効果的に働くことができる勤務環境をデジタルで整備する。スタッフ一人ひとりが、組織/チームとしての一体感を持ちながら、柔軟にチームを構成し、互いの個の強みを発揮する。

Ⅲ. 組織を変える: 組織運営の革新とデジタル基盤整備

強靱でモダンなデジタル基盤を整備し、業務プロセスの合理化及びデータドリブンなマネジメントの浸透により、大きな価値を迅速に生み出す組織へと、組織運営を革新します。

行動7【業務プロセス】: 効率的・効果的な業務プロセス・システムの確立

業務プロセスの徹底した合理化、使う人の立場に立ったデジタルの効果的な活用により、効率的・効果的な業務プロセス・システムを確立し、スタッフ及び外部パートナーの事務手続きに伴う業務負担を抜本的に軽減する。併せて、事業の迅速化・機動性の向上を進める。

行動8【データドリブンな運営】データドリブン組織・事業運営の浸透

データやエビデンスに基づく正確・迅速な意思決定を行うために、データを蓄積・分析・活用する仕組みを構築・運用する。データによって状況/成果を可視化し、事業においては、データやエビデンスを基にした開発インパクト/事業成果の可視化を進める。

行動9【デジタル基盤整備】強靱性のあるモダンなデジタル基盤整備

DX 推進の「エンジン」、デジタル技術・データの利活用のためのインフラとして、強靱でモダンなデジタル基盤を整備する。また、利便性とサイバーセキュリティ確保との両立を図る。

DXビジョン、3つの変革及び9つの行動

